

動かすこと及び物理的变化を連想させる英語 動詞群の意味分析

ITO, Koichi / 伊藤, 幸一

(出版者 / Publisher)

法政大学教養部

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

法政大学教養部紀要. 外国語学・外国文学編 / 法政大学教養部紀要. 外国語学・外国文学編

(巻 / Volume)

73

(開始ページ / Start Page)

75

(終了ページ / End Page)

87

(発行年 / Year)

1990-02

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00005448>

動かすこと及び物理的変化を連想させる 英語動詞群の意味分析

伊藤 幸一

はじめに

「動かすこと」は「動くこと」を他にさせることであり、並記して考察すべきなのかも知れない。しかし、これらは移動が中心で、後者は移動しつつある進行状態が重視され、前者は移動させられた結果の状態が話題となり、物理的変化をもたらすことへとつながる。そこで「動かすこと」は、物理的変化と並記されることになる。

妥当だと思われるので人間を中心として考察するけれど、本稿は「PULL・PUSH に動かされる英語動詞群の意味分析」とでも言い換えられる程であり、更に PRESS も加えて良いか⁽¹⁾。まず『動かすこと』として、人の手を介しての物の移動、基本的な PULL・PUSH の動き、重力に対する依存について、固着及び詰めること、複数集めること、を順次、分析する。

次に『物理的変化』として、手によることを中心に考え、まず掴むこと、その外延の捻ること、内包の引くこと、次に、この系列とは対立するであろう触れること、外延の擦ること、内包の押すこと、更に、これらに弾みをつけた叩くこと、外延の破くこと、内包の壊すことの順で、間接的に物理的変化を連想させるものから、本格的なものへと分析を進める。

動かすこと自身、既に物理的変化であり、本格的物理的変化も、動かす際に生じ、動かすことを伴うので、どちらが顕著なのかによって分類することになる。しかし、上記の枠内に納まらないものも出て来る。分離とか結合とか混合、液体に漬けること、汚れに関して、奇麗にすることを『まとめ』として論及する。

本稿の対象とする動詞群は「口・手・足から連想される」動詞群の表わす基本的動作・所作等に大いに関係し、特に『手』は重複する。また「DO に誘引

される」遂行・成就等に関する動詞群にも大いにかかわる。「精神的変化を連想させる」動詞群とは、受動態を通常の文章構造とするものがあること、比喩的にであれ、同種の意味を持つものがあることなどで、一部、交錯しているように思える。

ただし、液体、特に水、気体、特に空気に関しては別途にまとめる方が良いと考え、なるべく言及を控える。また、本稿の対象とする動詞表現の中には名詞としても機能し、かつ、その方が認識的に優越するものもあり、別の視点からの解析も有意義であることを示唆しているように思える。

動かすこと

ここでの「動かすこと」は『はじめに』述べたように、移動あるいは移動につながって行くとか、それに近い動きを対象物にさせることであり、それらを連想させるだろう表現を分析する。

《MOVE・SEND・CARRY》何かを、ある場所から動かすことには MOVE が適用される。対象物が本来、自ら動く機能を持っていてもかまわない。代表的には人や荷物を含む引越しを意味する。SHIFT は僅かな移動を暗示する。明確に、どこからどこへなのかを TRANSFER は強調しているか。

問題の場所から言わせれば、対象の物は除かれたことになるが、それを暗示するのが REMOVE である。ついでながら、空いた場所を新たに他の物で充足するのは REPLACE, DISPLACE, SUPPLANT, SUPERSEDE である。代用の SUBSTITUTE, 順序交換の TRANSPOSE も追記しておこう。

自らの手によらない場合も含めて、ある場所へ行き着くように送り出すのは SEND である。急ぎの場合は DISPATCH が適用されるか。TRANSMIT は遠距離を暗示する。具体的に乗物で積出すのは SHIP である。一方、仲介して誰かに渡すのが PASS であり、HAND は、より具体的に手渡すことである。配達するということになると DELIVER が適用され、分配するのは DISTRIBUTE である。

人の移動は強く視覚に訴えるけれど、その際に手に持っている物、あるいは携えている物を話題にしよう。誰でも move する際に携えている物を話題にすると CARRY が適用される⁽²⁾。現在ならば車を利用してのことが多いか。人が動くのは当然で、携えていることだけを強調する場合もあるが、それには特に BEAR が適用される。より重い物を連想させるか。TRANSPORT は遠

距離を専門的に行なうことであろう。ベルトコンベアの CONVEY も追記しておこう。方向が明確な場合もある。TAKE は、こちらから go することであり、BRING は、こちらへ come することである。ある場所まで行って、何かを携えて return するのは FETCH である。

《PULL・PUSH・LIFT》 ここまで来ると、更に具体的かつ基本的な、身体や手・足を使って物を動かすことを考えざるを得ない。まず、物に手が触れれば、掴んで手元に引こうとするであろう。普通は PULL が適用される。DRAW は滑らかな動きを連想させ、より重い物を対象とする DRAG は、時に、引き摺ることにもなる。HAUL は更に重い物に対し、他の動力を用いることもあり、広く運搬の意にも適用される。タグボートや綱引きにかかわる TUG も挙げておこう。

引くこととは逆に、対象物に向かって押すことも考える必要があろう。一般的には PUSH であろう。より重い物に対して強い力が加わると SHOVE である。更に急激だと THRUST が適用される。ついでながら推進力だけを強調すると PROPEL となる。

両方向の力とも、僅かな傾斜や起伏を含め、凡そ水平面の移動が想定されるが、記した通りの力が作用するなら、どこでも良い。しかし、対象物の形状にもよるが、重心に向かって、しかるべく力が作用しないと、横転したり転倒したりする。場合によっては転がした方が良いか。ROLL が適用される。

ところで垂直方向あるいは、それに近い場合、つまり重力に逆っての移動には、特に LIFT が適用される⁽⁴³⁾。より重いので、ゆっくりと強い力を必要とするのは HEAVE であり、滑車など利用しての引き上げを連想させるのは HOIST である。高い位置への移動を強調するのは ELEVATE であろう⁽⁴⁴⁾。同様に RAISE も適用されるが、立てること、立たせることも意味し、その状態を強調すれば ERECT につながる。STAND も挙げざるを得ない。

押したり引いたりする場合にも指摘したように、しかるべく力が作用せず、傾けてしまうのは TILT, LEAN, INCLINE であり、重力に任せただけではないが、すっかりバランスを崩しての横転や転倒は TIP, OVERTURN, UPSET である。更に上下、逆にすることを強調すると INVERT であり、REVERSE も挙げておこう。以上、当然、意図的な場合もありうる。

《THROW・HANG・PUT》 空中で重力に委ねれば、落とすことになり DROP が適用される。液体や小断片が容器から、こぼれるのは SPILL であ

る。ついでながら、木など立っている物を倒すのは FELL である。

落下に委ねるだけでなく、上に、あるいは横にスウィングさせると、投げることになり THROW が適用される。持ち上げる意に加え、投げる意も持ち、説明的なのは HEAVE である。力強く速くへ投げるのは HURL であり、狙いを付けての PITCH と共に野球の投手を連想させる。投げつけるのは FLING であり、上に軽く放るのは TOSS である。ついでながら、指先で弾いたり払い除けるのは FLICK, FLIP, FILLIP である。

空中で落ちることもなく浮いた状態は、カーテンなどを連想させるが、吊るすのは HANG である⁽⁶⁾。何かの上に乗っているのではなく、つまり下からではなく横から、あるいは上から支えられているのである。DANGLE は下の方が、ぶら下って揺れている状態を連想させる。紐などで吊り下げ、空中に浮いているかのように思わせるのは SUSPEND である。空中に浮いているゴミなどにも適用される。投げる意も持つ SLING を、ここに追記しておこう。

下から支えていても不安定な場合がある。鳥を止まり木に止まらせるように、高い場所に置くのは PERCH である。ここで一般的に、対象物を移動後、置くことを体系立てて考えてみよう。置く前には、どこであれ、より高い位置から下に下げる必要があるので、まず説明的には LOWER が適用される。最も一般的な表現は PUT であろう。しかし形状によっては、既述した STAND の方が適切な場合もある。どんなにバランスを崩し易い物でも、横にすれば安定するだろう。LAY が適用されるが、広げたり、敷いたり、などの場合も考えられる。そこで SPREAD, EXTEND も挙げておこう。

その場所が、しかるべき場所であることを暗示するのが PLACE であろう。整頓することも意味する。建物などには LOCATE が適用される。四囲との関連を連想させるのは SET であり、配置の意もある。SETTLE は今までで不安定だった物が安定することを意味する。定住の意がある。更に固定を強調すると FIX となる。

《ATTACH・BIND・PACK》 動かないように固定させるには、それらしき物に取り付けることが考えられ ATTACH が適用される。はめ込む場合は EMBED である。固定させるべく留めたり、結び付けるのは FASTEN である。具体的に、例えば PASTE, NAIL, PIN, PLASTER, CEMENT は、それぞれ糊、釘、ピン、絆創膏、セメントで固定させることである⁽⁶⁾。これらは STICK に総括される。紐やロープを結びつけるのは TIE で、その結

び目を強調するのは KNOT である。これらの具体的なものに加えて、包帯を巻く BANDAGE や、布などを巻き付けて括ったり、束ねて縛ったりするのも BIND は意味する。

花束など、奇麗に束ねて縛るのは BUNCH であり、荷造りのように、より大きく詰め込み、包むのは BUNDLE, BALE である。ついでながら、差し込むのは INSERT, INSET である。縛るだけでなく箱や袋やケースに入れたり、詰めたり、覆ったりすることになると、それぞれ BOX, BAG, (EN-)CASE が適用される。程良い包みを作るのは PARCEL である。PACKAGE は、より大きい場合もあるだろうか。同様な PACK は詰め込むことを強調している。壊れ易い内容物を守るための詰め物にも適用される。ついでながら、詰めて一杯にするのは FILL であり、CRAM は詰め込んだり、差し込んだりすることである。同様な STUFF は、詰め物で張り裂けそうな状態を連想させる。体重を掛けたりして押し込むことにも適用される PRESS を、ここで敢えて挙げておこう。

布や紙を大きく巻きつけ、覆ったり、包んだりするのは WRAP, ENVELOP である。COVER は部分的に覆うことを含め、隠したり、防禦することを暗示する。包むことは周りを囲むことでもあり SURROUND を、ここに記しておこう。更に ENCLOSE は、その囲みの中に何かを入れることも意味する説明的な表現である。

《HEAP・GATHER・ARRANGE》 既に対象物が複数であっても構わない表現もあったが、ここでは明示せざるを得ない。複数ということは前の物に新たに加えていく ADD を考えることになり、具体的には、目の前に対象物を積み重ねることになる。何でも良いから山なりに積み上げるのは HEAP である。PILE は、どちらかと言えば平板で積み重ね易い物の場合である。STACK は同種の物を適宜、それらしく積むことであろう。堤防の盛り土のような形に積むのは BANK である。

しかし、これらは、あちこちに散在していたであろう物を少しずつ一ヶ所に集めることでもある。一般的に GATHER が適用される。COLLECT は選択的に集め、更に整理することをも暗示する。ACCUMULATE は少しずつ集め蓄積させることである。(A-)MASS は、それが多量であることが多い。HOARD は、むしろ貯蔵の意であり、STORE などにつながる。ついでながら人を集めるのは ASSEMBLE であり、また、部品を集めて組立てることも

意味する。

どの場合も、ただ集めるだけでなく、無意識的に、好みのままに配置が行なわれている。ARRANGE が適用されるが、積極的に一列、あるいは何列かに配列するのは LINE, ALIGN であり、ARRAY は、その他、色々な配列が考えられる。RANGE は更にグループに分けることもあるか。一ヶ所に集めることにも適用される GROUP は、それを色々な仕分けること、つまり (AS-) SORT のグループ分けも意味する。いくつかだけを孤立 ISOLATE させることもあるだろう。それが捨てる DISCARD の意味を持つ場合もあろう。

折角、集めた物を、細かくグループ分けするというのではなく、ばらばらにすることもある。水を撒くのは SPRINKLE であるが、類似した状況で、広範に散らばらす、あるいは点在させるのは SCATTER である。DISPERSE は無理遣、四散させることか。更に STREW は点在して覆っていることを強調しているだろう。整然としている場合もある。ついでながら、部屋など整理されずに混乱した状況を連想させる MESS, LITTER, DISORDER は散らかすことを意味する。

物理的变化

何かを修理したり作ったり、という生産的あるいは建設的な面を考えると、ナイフからパワーシャベルに至るまでの 道具や機械類が思い浮かぶ。SAW, PLANE, HAMMER, FILE, PUNCH などは道具名を表わすばかりでなく、それぞれを機能させることも意味する。器用な手を介して行なわれるので、手の延長であると考えられがちだが、口それも歯や、足の延長であったりする。前者からは BITE, GNAW, CHEW など、後者からは TREAD, STAMP, KICK などが連想される。

しかし、一般的には、これらを含め、否定的な側面が思い浮かぶ。それらをまとめておこう。表面的に一時、損傷を与えるのは DEFACE であり、全体にかかわるような場合は DISFIGURE である。DEFORM は不自然なほどに逸脱した外観を呈することである。一般的には TRANSFORM を適用しても良いか。具体的には INJURE, BRUISE などが挙げられる。DAMAGE, IMPAIR, MAR などは外観を損なうだけでなく、機能や価値まで台無しにすることを意味する。SPOIL もここに加えておこう。以下、より具体的な基本的な物理的变化を考えるには、摺むことから分析するのが適切であるように思

われる。

《TAKE・PRESS・TWIST》 まず、何処かの、ある物を手に取るのは TAKE である。既述したように、そのまま運び去ることも意味する。しっかり手にするのは GRASP で、急激だと SEIZE であり、動いている物を連想させる CATCH に近づく。早く手元にしようとする力が加わると GRAB, SNATCH が挙げられる。腕なども加わって力強く抱き込むのは CLASP であり、胸の中だと HUG が適用される。

これらは指同志あるいは指と掌、腕と胸など、お互いに押し合っていることになるが、それを強調すれば PRESS が適用される⁽⁷⁾。特に親指と人差指で挟むのは NIP, PINCH である。掌で水の染み込んだスポンジなど圧搾するのは SQUEEZE である。WRING も同様であるが、洗濯物を絞ることを連想させ、捻ることも加わるか。

これらに対応する具体的な物理的变化を直接、連想させる代表的表現は TWIST ではないだろうか。振ることであり、糸など縊り合わせることを意味する。糸を紡ぐ SPIN, 髪を編む BRAID, PLAIT などを連想させる⁽⁸⁾。ついでながら、巻き付け、絡ませることも意味する (EN-)TWINE も挙げておこう。振れを拡大して見ると巻き付けることにもなる。螺旋状の場合は COIL の方が適切か。WIND は巻き続けて毛玉を作ったり、幅広い布などで巻き包むことも意味する。筒状になることを強調すれば ROLL である。本来、髪に関する CURL は部分的巻き付けとも言える、捲れ上がる状態にも適用される。振れを歪みと解釈すると DISTORT, CONTORT などが絡んでくる。歪みでも反らせたり、撓ませることになると WARP である。弧状に湾曲させるのは CURVE であろう。更に BEND は折り曲げる場合も含む。FOLD は折り曲げを繰返し、折畳むことまでも意味する⁽⁹⁾。ついでながら折り目を何本でも良いから付けるのは CREASE であり、揉みくしゃにするのは CRUMPLE である。

《WRENCH・TEAR》 手で掴む場合に暗示される手前に引こうとする力を明確にグイと示すと TWITCH である。捻る力も加わると強力になるが、そちらを強調すると WRENCH である。あの道具を連想させるが、挽ぎ取ることも意味する。WREST は明確に、それを強調する。一方、引く力を話題にすると、PLUCK は羽根など抜くことである。EXTRACT も同様であるが、より抽象的な意を持つ。これらに加え、張り付いている物を剥すのも TEAR

であるが、広い意味に適用され、鉤裂きなど、引き裂くことも意味する。RIP, REND も同様な意を持つ。後述の BREAK につながって行く。

表面を覆っている物を剥ぎ取るのは STRIP, BARE などであり、DIS-MANTLE は取り外すと言った感じである。明確に、着ている物を脱がせるのは DIVEST である。堅い殻に対しては SHELL が適用される。動物や果物の皮に対しては SKIN であるが、広く、擦り剥く意も持つ。より具体的に、薄くて分離し易い皮には PEEL が適用される。ついでながら、容易に剥けず、刃物などを使用すると PARE である。以上、別の視点からは DETACH が適用されることを取えて、ここに追記しておく⁽¹⁰⁾。

《TOUCH・RUB・SCRAPE》 手で掴むこととは前後してしまった感の、触れることを考える。一般的には TOUCH で表わされる。明確に触れたことの確認が出来る程度の時間を要し、押す感覚もあり、軽く打つことで楽器などに、いわば触れることも意味する。布などの物の感触を得るべく接触するのは HANDLE であるが、様々に操作することまでも意味する。

程度に幅があり、触れる以前のことも解釈出来る、何か、いわば掠ることも考察せざるを得ない。急激に、擦れ違い様だと、真空圧による鎌削ではないが、擦り剥くことになる。どれも比喩的であるとも解釈し得るが、BRUSH, SHAVE, GRAZE などが挙げられる。擦り剥くことを明確に意味するのは ABRABE である。体を擦って暖を取ることを表わす CHAFE も、度を越してだろうか、この意味を持つ。

一般的に、擦るのは RUB で、摩擦することである。触れる際の押す感覚を横に往復させることであると説明出来るか。ついでながら、掌を軽く触れた程度で一方向に撫でると STROKE である。堅いタワシなどでゴシゴシ強く擦るのは SCRUB である。水なども使用するか。SCOUR はより堅い物で強力に磨くことである。更に堅い物で「こそげる」のは SCRAPE である。削ることも時にはあるか。SCRATCH は爪など鋭利な物で引っ掻くことである。ついでながら CLAW も挙げておこう。下し金で擦るのは GRATE であり、柔らかい物を対象とし、より荒いヤスリを用いるのは RASP であり、堅い物を対象とする。GRIND は磨いたり研ぐだけでなく、押し潰して粉などに碾くことも意味する。ついでながら刃物を研ぐのは WHET である。

《PIERCE・PICK・CUT・SNIP》 以上のように、擦ることには、かなりの力が加わっており、対象物によっては凹むだろう。DENT が適用される

か。垂直に棒状の物を押す、つまり突けば、簡単に行なえる場合もある。手で触れる場合の押す感覚を話題に据えることになる。これは POKE と言って良いだろう。ついでながら突き出すことを強調すると PROTRUDE, PROJECT が適用される。鋭利な物で突くことは刺すことになるが、PROD は突く意の他、刺す意も持つ。

針などで刺すのは PRICK で、紙ならば穴も明く。刃物で突き刺すのは STAB であり、尖った物で突き通す場合が多いのが PIERCE である。穴を明けることを明確に意味するのは PERFORATE, PUNCH であり、専門の道具も連想させる。タイヤなどパンクさせるのは PUNCTURE である。ここで非常に特殊な PICK を挙げておこう⁽¹¹⁾。嘴の様な物を連想させ、「つつく」ことで「ほぐす」または穴を明けること、更に、挟むことで（摘み）取ることまでも意味する。一般的に穴を明けることは HOLE であろう。

ドリルを回転させることで板などに穴を明けるのが DRILL, BORE であるが、鉱山や油田などに関しても適用される。大地には鋤を使っての SPADE が挙げられるが、掘り返したり、掘り出すことも含め DIG が適用される。EXCAVATE は考古学の発掘を連想させる。横穴を掘ったり、削り貫くのは CAVE である。トンネルを掘ることを明確に意味するのは TUNNEL である。地表に溝を掘るのは DITCH あるいは TRENCH である。FURROW は畑に畝溝を作ることである。

彫刻で溝を掘ったり、穴を明けたりするのは道具のノミを連想させる CHISEL であろう。INCISE は切り込みを入れることで ENGRAVE などにつながる。彫刻には CARVE も適用されるが、削り取られた断片を重視する場合があります。肉など削り取ることも意味する。どれも刃物を連想させるが、そこで広い意味を持つ CUT を挙げざるを得ない。穴明けから自在に切断するまでを意味する。ところで薄く切り取るのは SLICE である。大きく鉋を振るうのは HEW, HACK であるが、CHOP になると繰返すことで小片にすることも意味する。細かく切り刻むのは MINCE, SHRED であろう。

裂かれる断面が長いことを暗示する表現がいくつかある。大きく切り裂くのは肉切り包丁を連想させる CLEAVE であり、二分することを強調するのが SPLIT であろう。深く抉るようなのが GASH であり、非常に縦長であることを強調するのが SLASH で、浅いのは SLIT であろう。これらは、むしろ、既述した、刃物を用いない TEAR の仲間として解釈されることもある。

刃物として、鋏などを用いて切断することも追記する必要があるだろう。既に、それらしき表現があったことを認める。SNIP は鋏のあの音を連想させる。SHEAR は大鋏で羊毛や木を切ることを意味し、CLIP は更に爪なども対象となるし、紙など切り取ることも意味する。TRIM は小奇麗にすることも意味するように、余分な部分を切り取ることである。植木の枝を、いわゆる剪定するのは PRUNE である。CROP は収穫の意もあるように、先端を切り取ることだろうか。

《STRIKE・BREAK・DESTROY》 今迄、言及して来た、手に関する所作の全てにスイングを加えると、叩くことになる就说明出来ないだろうか。少なくとも、押し出す力に関しては妥当するように思える。掌で叩くのは SLAP に代表される。TAP は軽く叩くことで、RAP, KNOCK, PUNCH になると拳による。THUMP は更に棒によることもあろう⁽¹²⁾。『動かすこと』で言及した、落とす、あるいは投げる場合も、何かに当たると HIT, STRIKE が適用される。繰返し打つことは BEAT, POUND であり、POMMEL は拳による。鞭や棒でなら WHIP, THRASH などが挙げられる。

ここまで来ると、強い衝撃で部分的に、あるいは全体的に破損が生じることを、直接、意味する表現を考えざるを得ない。代表的には BREAK が挙げられるだろう。FRACTURE が対象とするガラスなど堅くて脆い物ばかりではなく、SNAP の対象となる枝や紐などの他、更に、紙などに対しても適用される。CRACK は堅い物の表面にひび割れを起こさせることであるが、音だけの場合もある⁽¹³⁾。鏡や木など縦長に割れるのは SPLINTER である。SEVER, SUNDER は割れたりして、いくつかに分離することを強調している。音と共に衝突が起きるだけでなく粉砕するのは CRUSH である。押し潰す場合もある。SMASH は粉砕することを強調している。練り粉の意もある BATTER も同様である。SHATTER は打砕くことであろう。SQUASH は柔らかいものを潰すことで、料理などで何度も叩いて潰すのは MASH である。

構造物に対して、より抽象的に、かつ大規模になると破壊ということになるだろうか。一般的には DESTROY が適用される。DESTRUCT も記さざるを得ない。船や車などに対しては WRECK であろうか。建物を破壊するのは DEMOLISH であり、RAZE は倒壊させることである。大きい物だと上から潰せず、下から壊すことになる。ついでながら、一般的に平らにすることは LEVEL, FLATTEN であろう。RUIN は少しずつなのかも知れないが、結

果的な壊滅状態を強調しているだろう。DEVASTATE は荒廃させることである。

これらは時に爆発と共に起きることがある。内側から出る圧倒的な力による。一般的には BURST が適用されるが炸裂を強調しているか。火薬などによる EXPLODE は爆音を、BLAST は爆風を強調しているか。ERUPT は火山の爆発に適用され、噴火のように激しく噴出することを暗示する。

ま と め

より抽象的なもの、具体的であっても今迄の分類では処理出来ないもの、複雑であっても言及せざるを得ないもの等、ここでまとめておこう。

《PART・JOIN・MIX》『動かすこと』で集めた物を仕分けること、『物理的变化』で切断することなどは、まとまりを見せた物の分離を意味する。その分離を強調するのが PART である。結果としての複数性を暗示するのが DIVIDE であり、それぞれが、また、まとまりを見せたり、独自に存在することを意味するのが SEPARATE であろう。

逆に、別個である物を、ひとつにまとめることを考えると、元の独自性を失わないでいることを暗示するのが CONNECT であろう。それなりのまとまりを見せるのが JOIN である。新たに別個の物になる程のまとまりを UNITE は示す。LINK は鎖の環のように独自性と全体性の両方を連想させる。それぞれ複数の物が組合わされるわけで、その組合わせを強調しているのが COMBINE である¹⁴⁾。

水と油は別としても、ほぼ同種の物同志の組合わせにおいて、混合することで全体を等質にさせるのは MIX であり、BLEND は良質になることを暗示する。MERGE は混合物であることを意識させない程である。ともあれ、とにかく成分が複数であることを強調するのが COMPOUND である。MINGLE は混合しても相互に見分けがつく。

《DIP・SOAK》対象物を箱などに入れて詰めることとの関連で液体、特に水の中に入れることも言及せざるを得ない。液体の中に突込むのは PLUNGE である。一部分だけ浸すのは DIP であるが、瞬間的なら全体でも良い。IMMERSE は全体を沈めることであり、潜水艦のように深いと SUBMERGE である。STEEP は漬け込むことか。液体を掛ける場合も含め、染み込ませるのが SOAK である。一般的に飽和した状態を連想させるのは

SATURATE であり、度を越して、滴り落ちるのが DRIP である。雨などで、びしょ濡れになっている DRENCH は、その状態であろう。ところで、結果として湿った状態を強調するのは WET, MOISTEN, DAMP(-EN) である。ついでながら、反対に、乾かすのは DRY に代表される⁽¹⁵⁾。

《SOIL・STAIN》 日頃、身に付けている物、家具や部屋などの汚れに関して考える。極普通に汚すのは SOIL であり、特別な事で、度を越した場合は DIRTY である。更に不潔感が漂うと FOUL を適用しても良いか。ついでながら、化学的なことになるだろうか、不潔な空気や水を連想させる汚染に関しては CONTAMINATE, POLLUTE, DEFILE などが挙げられる。

大きなシミが付いているのは SPOT であり、小さいのは SPECK である。SMEAR は油など、「ねとつく」場合に適用され、SMUDGE は煤けた感で汚すことである。STAIN は何らかの色がシミついてしまったの変色を表わす。色褪せての変色は FADE である。光沢がなくなる場合 TARNISH が適用される。一般的に、変色はどれも DISCOLOR に総括されるだろう。

《COAT・CLEAR》 最後に、汚なく取り散らかした物を奇麗にすることでまとめたい。好きな色に着色するのは COLOR である。特に淡い色合いには TINGE, TINT が適用される⁽¹⁶⁾。漂白あるいは脱色するのは BLEACH である。染色は別で DYE が適用される。ペンキを塗って色を付けるのは PAINT である。水しゅくいを塗るのは WHITEWASH である⁽¹⁷⁾。上薬で艶出しをするのは GLOSS である。VARNISH, LACQUER も、更に WAX もここに記しておこう。ガラスをはめることを意味する GLAZE は、ガラス同様な艶出しをすることにも適用される。メッキすることも意味し、一般的に覆うことである COAT がこれらを総括するであろう。

既述した擦ることや磨くことでも艶出しは出来る。それには SHINE, POLISH が適用されるだろう。ついでながら、再び磨くことで一新するのは REFURBISH である。これら磨く際には色々な理由で、油で拭くことも考えられる。OIL, GREASE が適用されるか。機械など潤滑油として油を塗る場合は LUBRICATE である。ついでながら ANOINT は洗礼などで身体に油を塗ることである。

部屋、その他を奇麗にするには、これらの事を考える前に、まず、布切れなどで拭ったりしなければいけない。WIPE あるいは DUST が適用されるか。整頓も含め、奇麗にすることは CLEAN である。TIDY は特にキッチンとする

ことである。もう既に、別の意味分野が、その窓を明けているように思える。

注

- (1) 因みに push-up あるいは press-up は懸垂のことであり、pull-up は腕立て伏せのことである。
- (2) ここでの move は「動くことを連想させる」動詞群に属する、いわゆる自動詞として機能していることは言うまでもない。
- (3) LIFT は下にある埋もれた物を上に掘り出すことも意味する。それぞれ器具を連想させる SCOOP, LADLE, SPOON, 更に SHOVEL の掬ってからの移動へとつながる。更に、後述の DIG へもつながって行く。
- (4) ついでながら lift=elevator は英・米語の語彙の違いの代表例であることで良く知られる。
- (5) DROP と HANG の相違を考える上で drop curtain を考えるのはどうであろうか。
- (6) その他 GLUE, BOLT, SCREW, RIVET などが挙げられる。
- (7) KNEAD, MASSAGE などここに追記した方が良いか。PRESS 自身は既に『動かすこと』で語込む折に言及している。圧縮するのは COMPRESS である。
- (8) KNIT, WEAVE, SEW などへつながって行くだろう。
- (9) FOLD は既述した HUG にも通じる。包み込むことにつながる。
- (10) この DETACH は『動かすこと』で記した ATTACH と対立する。
- (11) ついでながら pickaxe は鶴嘴の意である。
- (12) ついでながら棍棒で叩くのは CLUB である。
- (13) その都度、言及しなかったけれど、他にも音を連想させる表現は多い。一般的に「音を連想させる」動詞群を別途に考察するのも一興か。
- (14) 以上のことは「KNOW 及び THINK に焦束する」動詞群のうち『認識』の一部へとつながって行く。
- (15) ついでながら drip-dry を考えてみたい。DEHYDRATE も挙げておこう。
- (16) 具体的に様々な色にすることを表わす動詞表現は、例えば REDDEN のように、色を表わす形容詞表現に -EN を付けることで表わされる。
- (17) 絆創膏を張ることで記述した PLASTER も、しっくいを塗ることを意味し、一般的に、張ったり、塗ったりすることを広く意味する。ついでながら、このパラグラフは『動かすこと』の覆ったり、包んだりすることにつながる。